

耳だれ様

耳だれ様は、榎戸(旭地区)の宝性寺に伝わるお話です。

耳の痛みに苦しむ太助が、村の長老に耳の病を直す方法を尋ねると、宝性寺のお堂にある手水鉢に入ったお酒を耳につけると耳の病が治ると教えてくれます。

温かみのある絵
とともにお楽しみ
ください。



お話の舞台となった場所:
宝性寺(川藤400)



文・絵 吉川市美術協会



文 吉川市教育委員会 絵 県立吉川美南高等学校美術部

石仏大威徳明王

吉川市は中川と江戸川に挟まれ、稲作が盛んな地域である反面、多くの水害に見舞われてきました。加藤にある大威徳明王は、洪水が起これないよう願って村人が建てた石仏で、加藤吉屋(三輪野江地区)に伝わるお話です。

吉川美南高等学校美術部の皆さんの力強い描写にも注目です。



お話の舞台となった場所:
加藤 744 地先

なまずの人助け

吉川と言えば「なまず！」ということので、4作品目は「文藝よしかわ第4号」で、「創作(なまずの)むかしばなし部門」にて最優秀賞を受賞した作品が原作です。

沼の中から飛び出してきた小さななまずを子どもたちが沼に帰してあげるところから話は始まりです。色鮮やかな絵でつづるなまずの恩返し物語です。

原作は、「文藝よしかわ第4号」(80ページ)に掲載しています。
文藝よしかわについては、今月号のくらしの情報11ページで紹介しています。



作 絵 吉川市地域活動支援センター そよかぜメンバー